

令和5年度 全国学力学習状況調査 第6学年 考察

1. 国語について

調査問題に対する正答率の平均は67%であり、公立学校の神奈川県、全国の数値とほぼ変わらない。神奈川県、全国平均値に対して、知識・技能ではやや高く、思考力・判断力・表現力ではやや低い傾向が見られる。

観点別に見ると、知識・技能に関する調査結果は、正答率72.2%である。これは、神奈川県平均68.5%、全国平均68.9%、よりもやや上回っている。「情報の扱い方に関する事項」の領域については、平均値よりも高い傾向が見られる。タブレット端末の活用による、情報の整理や関係付けなどの経験が積み重ねられていると考えられる。

思考力・判断力・表現力の観点では、正答率62.6%であり、神奈川県平均64.0%、全国平均65.5%よりも、やや下回る結果である。中でも、記述式の問題の正答率が神奈川県や全国の数値に対して低めであった。相手の伝えたいことを捉えて要旨をまとめる力や、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる力を高めていきたい。

2. 算数について

正答率の平均は64%であり、全体としては公立学校の神奈川県、全国の数値とほぼ変わらない。

領域ごとに見ると、「図形」では平均値に近く、「変化と関係」や「データの活用」では平均値よりも高い。全体を通して、示された情報を読み取ることができていると言える。「データの活用」の能力については、本校は71.2%、神奈川県平均65.2%、全国平均65.5%と高い。タブレット端末を活用し、情報の比較や、様々な解き方の交流を多く行ってきたことが要因と考えられる。一方で、「数と計算」領域の計算（筆算）の正答率の低さが課題である。乗法（ 50×40 ）、除法（ $66 \div 3$ ）の正答率が全国平均よりも7%低い。計算演習に取り組む時間を確保し、より力をつけていきたい。

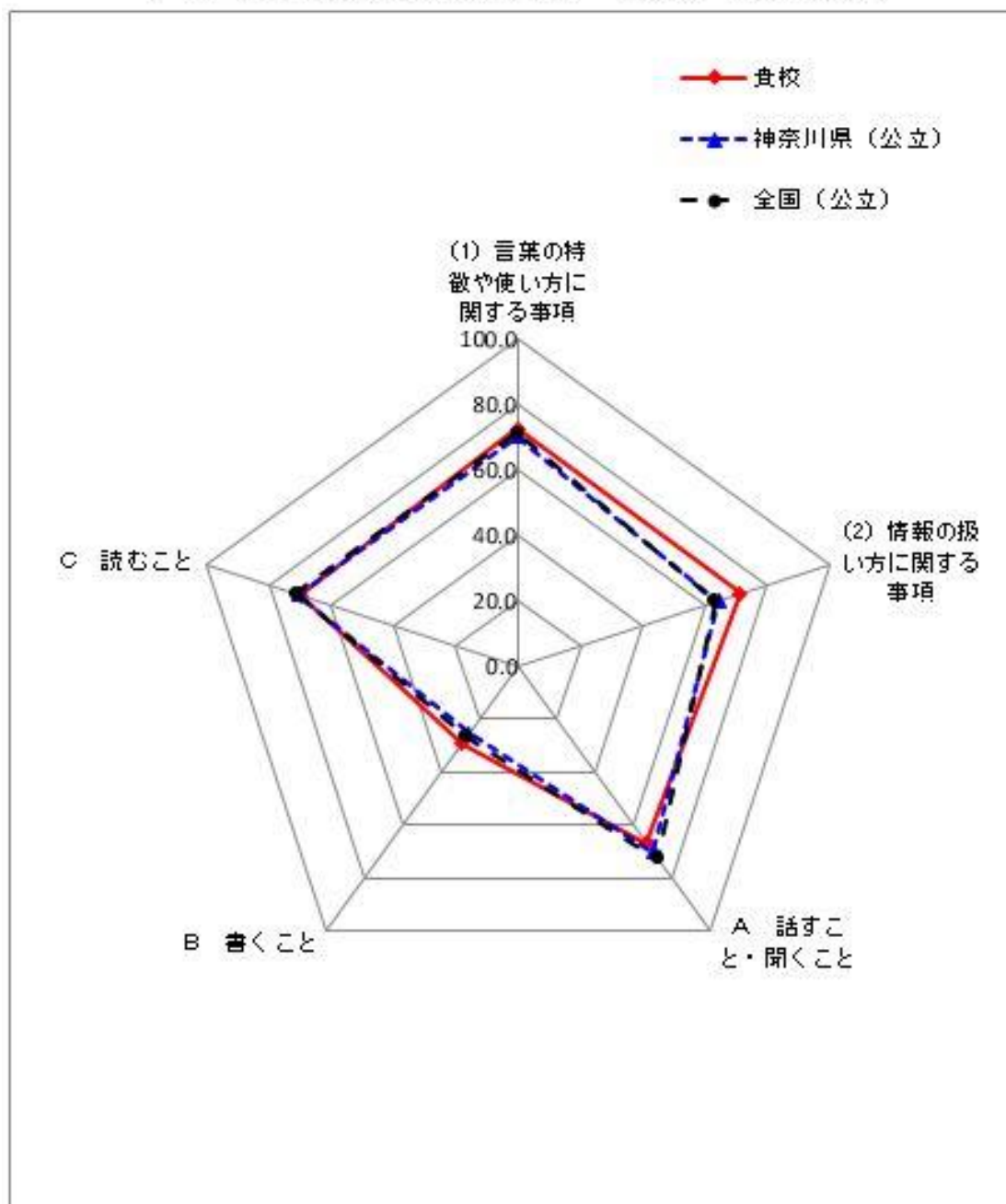
3. 学習活動の取り組みと、子どもたちの様子

本校では、国語を中心に、「かかわり合い、認め合い、伝え合おうとする子」の育成を目指して、単元構成を工夫したり、基礎的言語について指導したりしている。算数では少人数学習を取り入れ、一人一人の課題を把握し、「分かる・できる」授業づくりに取り組んでいる。学習に対する関心や意欲を大切にしつつ、基礎的・基本的な学力の定着を図り、主体的に学習できるように工夫している。全国学力・学習状況調査の結果を見ると、情報の読み取りや関係付けについての力がついてきていることが分かる。タブレット端末を活用して、自分の考えを整理したり伝え合ったりする活動に今後も継続して取り組んでいく。

また、あゆみや個人面談等を通して、児童の苦手分野を保護者と共有し、連携して、学力の定着を図れるよう、計画していく。

国語

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>



算数

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>

